



共成



昭島市立共成小学校
校長 森本 弘子
令和5年3月23日

学校ホームページ <http://www.city.akishima.ed.jp/~kyosei/>

今年度の教育活動へのご理解とご協力ありがとうございました。

校長 森本 弘子

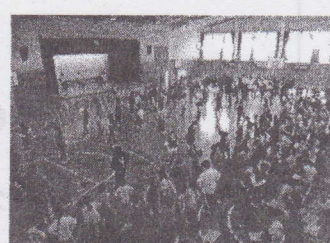
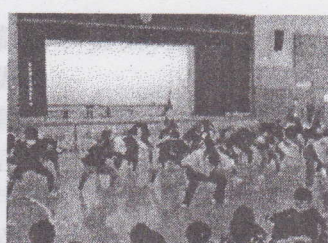
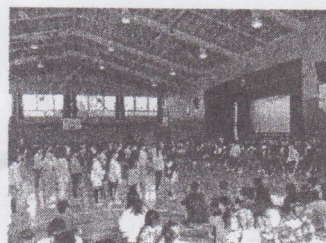
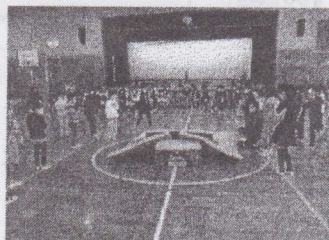
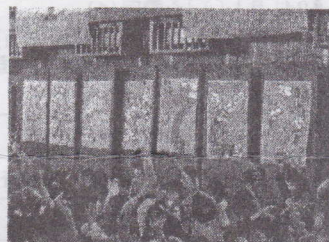
今年は、平年より10日ほど早く桜の開花宣言ができました。共成小の桜も次々と開花し、子供たちの卒業、進級を祝っているようです。

保護者の皆様方、地域の皆様方、学校関係者の皆様方のご理解とご協力により、本日無事に令和4年度の修了式を終えることができました。心より感謝申し上げます。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながらではありませんでしたが、昨年度よりも子供たち同士または、地域の方々との「直接のかかわり合い」を大切に教育活動を進めてきました。直接かかわり合い、自分の目で見て、感じる、その思いを言葉で伝え合うことができました。様々な活動を通して、人とつながる喜びを実感でき、互いに認め合い、高め合うこともできました。

感動に包まれた「6年生を送る会」

3月8日（水）の「6年生を送る会」は、久しぶりに体育館に全校児童が集まって行いました。4年生以下の子供たちにとっては、初めて全員集まるの会への参加となりました。司会の「6年生が入場します。」の合図とともに、在校生が一気に笑顔になり、大きな拍手と歓声が沸き上がりました。皆が待ち望んでいた瞬間に誰もが大きな感動に包まれました。各学年から、6年生に6年間の小学校生活を思い出してもらおうように工夫を凝らした出し物があり、6年生は、お礼の出し物でカッコいい姿を見せてくれました。最後に6年生から、「運動会で踊ったコネッタをもう一度全校で踊りましょう。」との呼びかけがありました。音楽がかかると自然と体が動き出し、全校一体となりました。足をどンドン鳴らしたときに体中に響いた振動は、今も体に残っています。全ての出し物に全員が一緒になって参加し、楽しみました。子供たちも教職員も誰もが、一緒に集う喜びを分かち合いました。1年生が「楽しかった。またやりたい。」と担任に伝えながら、体育館から出ていきました。今までで一番感動した「6年生を送る会」となりました。



「やさしい言葉」で豊かにかかわり、つながる共成小

5年生が、6年生からリーダーのバトンをしっかりと引き継ぎました。6年生の姿から学んだことを生かし、頼れる最高学年として活躍してくれることでしょうか。本校は、これからも「言葉の力」を大切にしながら、より多くの人とかかわる中で、自他を尊重し、協働意識を高めていく教育活動を進めてまいります。





共成



昭島市立共成小学校
校長 森本 弘子
令和5年5月31日

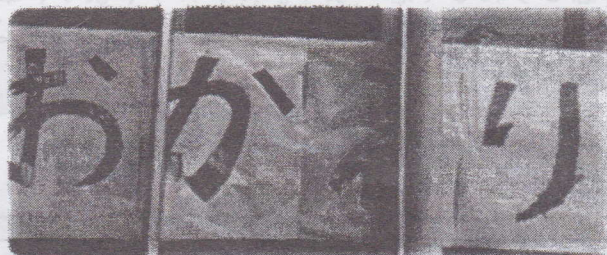
学校ホームページ <http://www.city.akishima.ed.jp/~kyosei/>

ひとつの言葉を大切に

副校長 鳥海 剛

5月18日～20日まで6年生が日光移動教室に行ってきました。2日目は、午後から雨に降られながらも、全ての行程を実施することができました。保護者の皆様には、当日までの準備や健康管理などたくさんのご協力をいただきありがとうございました。

そして、出発日の朝には、1年生からの「げんきでいってきてね」の文字が窓一面に貼られていました。帰りには、若草学級からの「おかえり」が貼られていました。それを見た6年生が、とても嬉しそうにしていたのが印象的でした。いつもと違う環境に出発する6年生の心に、元気を与えることができたと思います。



6月は、人と人とのふれあいを大切にする「ふれあい月間」です。友達と遊んだり、勉強をしたり、ふれあう形は様々です。4月は、6年生が1年生の朝の生活をお手伝いしてくれました。2年生は、1年生に学校の教室を紹介してくれました。5月に3・4年生は交通安全教室で警察の方に教えていただきました。どんな場面でも大切なことは、「言葉」の掛け方です。「言葉」の声の大きさ・速さ・高さによって、相手に与える印象も変わってきます。職員室の前の廊下に、北原白秋さんのこのような詩が掲示されています。ひとつの言葉によって、傷付くこともあれば、励まされることもあります。たった一言でも、相手に自分の気持ちが伝わります。日頃から、伝える言葉をよく考えて、大切にしてほしいと思います。

ひとつの言葉を 美しく	ひとつの言葉を 大切に	やさしい言葉は やさしい心	きれいな言葉は きれいな心	ひとつの心を もっている	ひとつの言葉は それぞれに	ひとつの言葉で 泣かされる	ひとつの言葉で たのしくわらい	ひとつの言葉で 心がいたむ	ひとつの言葉で あたまがさがり	ひとつの言葉で なかなかおり	ひとつの言葉で けんかして	『ひとつの言葉』 北原 白秋
----------------	----------------	------------------	------------------	-----------------	------------------	------------------	--------------------	------------------	--------------------	-------------------	------------------	-------------------

始業式の際、共成小の子供たちに、「名前を覚えてくださいね！」と声を掛けました。今では、「鳥海副校長先生、こんにちは！」と声を掛けてくれる子がたくさんいます。ちょっとした言葉ですが、とても心が温かくなり嬉しくなりました。ちょっとしたことでも、共成小学校のみんなで声を掛け合い、言葉を大切にしていけるとよいと思います。



共成



昭島市立共成小学校
校長 森本 弘子
令和5年4月28日

学校ホームページ <http://www.city.akishima.ed.jp/~kyosei/>

一步前に！ Move 共成

校長 森本 弘子

新しい学年での生活がスタートして一か月が経ちます。今年度から、登校時間を8時15分から20分までの5分間とし、朝の支度を終え、8時25分から出席の確認、朝の学級指導を始めています。ほとんどの子が、間に合うように登校できています。授業中は、どの教室も落ち着いて学習しています。ご協力ありがとうございます。

休み時間には、元気に校庭へ走っていったり、池をのぞいてオタマジャクシをみたりと、楽しく過ごしています。緊張もとれ、そろそろ疲れが出てくる

ころです。お子さんの体調の変化に気を付けて、体調管理をどうぞよろしくお願いします。

1年生は、ひらがなの学習を始めました。初めてひらがなを学習する前に、担任が、「ひらがなが書けるようになったら、どんなことしたいかな？できるかな？」と子供たちに問いかけ、黒板にウェビングマップを使って子供たちの意見をどんどん書きながら、子供たちのイメージをふくらませていました。「お手紙書きたい。」「誰に？」「おともだち、お家の人…。」どんどん広がっていきます。その後、皆、意欲満々で最初に習う「つ」の文字を学習し、丁寧に書いていました。

1年生に限らず、どの子も「分かるようになりたい、できるようになりたい。」という思いをもっています。学校では、その思いに応え、「できるようになった、分かるようになった」と、子供たち自身が学びを自覚できるよう授業改善を進めていきます。

今年度の校内研究のテーマは、

「児童が主役の学びを創る！」授業づくりへの挑戦

～自律と協働へつながる実践を積み上げよう～ です。

子供たちが、自分から学ぼうという意識をもって、主体的に学ぶ授業を目指していきます。その過程で、子供たちの学びをスモールステップで認め、自分から学んでいるという自覚をもたせていきます。

また、令和5年度、6年度の2年間、昭島市より「授業力向上アドバイザー事業」の指定を受け、全教員が授業力向上に向け、講師から指導をいただき、授業改善に努めていきます。

特別活動の充実を図り、児童の主体性を高めます。

特別活動においても、共成会議、児童集会、行事実行委員会など活躍の場を多く設定し、子供たちが主体となる活動を進めていきます。自分たちの力で成し遂げる喜びを実感するとともに、高学年の生き生きと活躍する姿にあこがれることで、自分もあんな風になりたいと、目指す姿がはっきりします。

「何のために？」「全校みんなが楽しくできるためには？」私たち教師は、子供たちにどんどん問いかけていきます。どうやったら実現できるのか、子供たちの思いを引き出し、アイデアをつなぎながら、教師と子供たちが一緒になって新しいチャレンジをしていきます。

一人一人の子供たちの活躍の場があり、自分たちの力でより良い学校生活を創り出していけるように、「一步前進！ Move 共成」を合言葉に、子供たちの力を信じて、教職員が一丸となって、力を尽くしてまいります。ご協力よろしくお願いいたします。

